琵琶湖の源流を下流民と共に考える～エコミュージアムとエコツアー～

伊吹の源流を考える会　会長　谷口　隆一

1．活動の方針・目的

地球は「水の惑星」と言われていますが、人間が飲める真水、淡水は１パーセントといわれています。日本で言えばその宝庫が琵琶湖です。琵琶湖にはたくさんの川が注いでいて、川には源流があります。源流を守れば琵琶湖もきれいになります。中でも北近江には、まだまだ豊かな自然が残っています。特に東・北部の伊吹山地には、貴重な動植物も多く生息しています。この自然に触れ、「源流を愛する人を増やしたい」そして、未来永劫に水を安全に琵琶湖に注いでいくことが現代の私たちの大切なことと考えたいと会を結成し活動をおこなっています。

2．活動の内容

地域の素材を最大限いかした活動を行っています。会のメンバーはイヌワシや動物写真家や植物の先生、猪の生態を調べる大学教授、ペンションのオーナー、フランス料理のシェフ、公務員、地元青年など３０名で伊吹山周辺の動植物を肌で感じる「伊吹山エコツアー」や「源流曲谷五色の滝エコツアー」などを企画し、下流の都市の方との地域の皆さんと共に源流を知っていただき源流ファンを多くつくっています。

また、古民家を改修し源流の会の拠点としながら一般にも一人１０００円の使用料で開放し田舎体験を味わってもらっています。

3．今後の課題等

まだ、NPO として登録はしていませんが今後は自然を生かしたエコツーリズムやグリーンツーリズム観光、体験農場、体験農家民泊を仕込むマネージメントをしながら仕組みづくりが当面の課題である。

伊吹の源流を考える会

エコミュージアムとエコツアー

エコミュージアム思想

- 「エコミュージアム」とは
- （生態学・環境）　（経済・自然界のシステム）　（博物館・学ぶ）

エコロジー　エコノミー　ミュージアム

環境と経済が適度なバランスを持つ

環境を支える経済の仕組み・システム

地域や生活を通じて学ぶ

源流にある地域資源を活かす

源流が未来永劫に安全で健康な生活が営める環境を作る

源流エコツアー風景

猪の痕跡などをツアーの中で説明

地域の農家に出ておすそ分け体験

- 大久保地区の皆さんと

都会の子供たちの雪体験

- 米原市最北端の地甲津原にて

地域の素材でアレンジメント体験

- 山のツルを使っての籠づくり

源流の民家風景

シシ垣のある山の農場から源流の民家を望む

源流に住む有志がわくわく農園を開墾

シシ垣に代わる電気柵の中で自然薯栽培

ギャルも幻の伊吹大根を求めて農業体験

農場までのシシ垣周辺の草刈を実施

農園グループが今後について農場談義

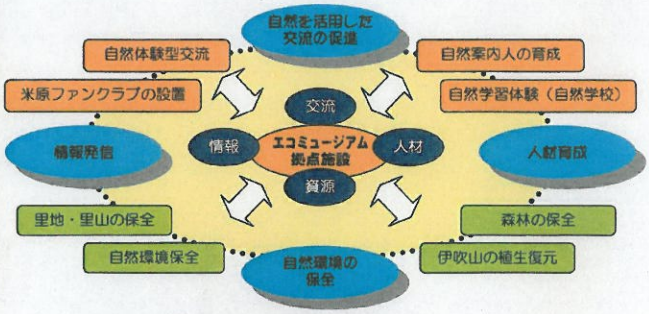
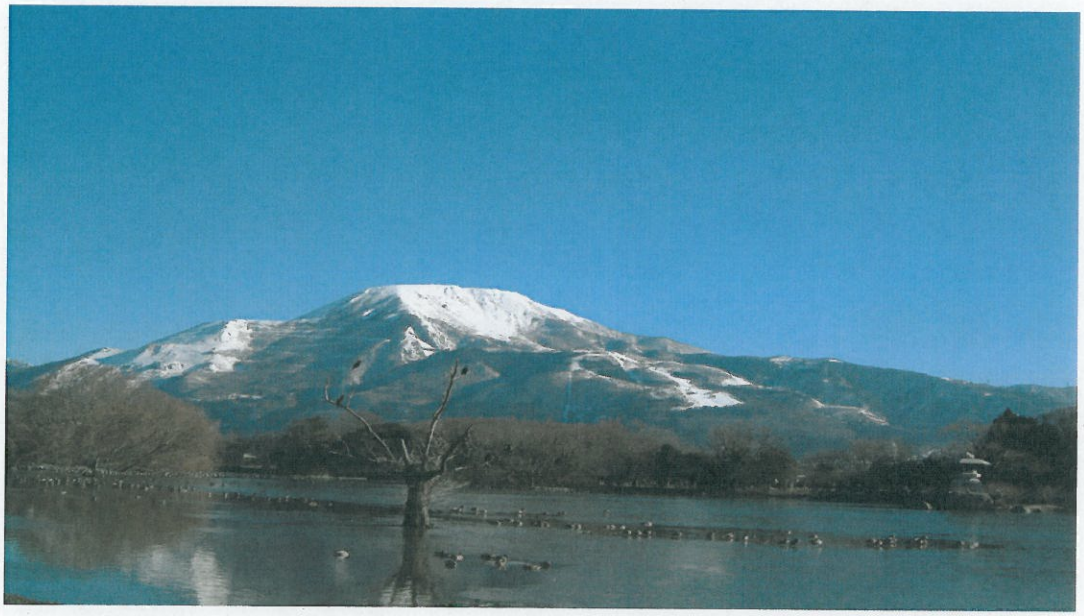
総合的な仕組みの必要性

- 地域の素材を活かす取り組み

エコミュージアム構想の推進

●エコミュージアムとは、地域全体を博物館とみたて、地域のなかにある生活文化や、自然環境、地域の歴史などをうまく活用して、地域の発展につなげようとする取り組みのことです。

●地域の住民が地域を学び、地域の専門家として、訪れる人たちを満足させていくことが求められることから、エコミュージアムの運営には地域住民の主体的な参加・協力が必要です。



今年も伊吹山に雪が積もりました